

博報財団 第12回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名	ZAHLTEN Alexander Nikolas (ザルテン アレクサンダー ニコラス)
在住国名	アメリカ
所属・役職	ハーバード大学、Associate Professor (准教授)
招聘回(招聘研究期間)	第12回 (2018年3月1日～2018年8月31日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	日本における自主映画
研究目的	日本の非商業制作映画(自主映画)の豊富で広大な歴史と今のメディア文化に自主映画が与えた計り知れない影響を描くものです。
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>東京・大阪・神戸にある図書館(国会図書館、早稲田の演劇部博物館の図書室など)とアーカイブで1920年代から現在までの自主映画の製作・上映と関係ある資料を調べ、集めました(幅広く集めましたが、自主映画同人誌での言説・議論、販売された自主映画についての本・雑誌で働いていた理想、そして具体的な個人向けカメラ技術の変化などです)。そして、60年代以来自主映画活動をしている中心的な方々何人とインタビューをしながらさらに資料を集めました。その上、アーカイブ(びあフィルムフェスティバル、神戸映画資料館など)、上映会、そして自主映画製作した個人・グループから自主映画製作作品を観たり、集めたりしました(自主映画はほぼビデオ・DVD化されなく、実際当時影響力を持っていた作品まで観るのは難しいです)。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>まずは、日本における自主映画の歴史は主として三つの時期に分けることができます:1930年代、1950年代、そして1970年代。それぞれの時期の映画製作目的、作品に対する理想、実際参加する年齢層が違い、自主映画作家・団体の間のネットワークの質と作り方も違います。簡単に言えば1930年代の作家は国際ネットワークを作り、「世界性」を構築しようとしていました;1950年代の作家は市民社会に参加したく、自主映画によって新しい「生活」を構築しようとしていました;1970年代の自主映画作家は「運動」というネットワークを避けるために、フィクション映画に集中し、フィクションによって純粋なネットワークを作ろうとしていました。</p>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</p> <p>・2年以内に本を出版する予定</p> <p>○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))</p> <p>・(予定:)Association for Asian Studies (2019年3月21日—24日, Denver, Colorado, USA)発表 → 1930年代と1970年代の自主映画製作者・上映する人の間のネットワークの比較</p> <p>・(予定:)学会「Legacies of Leftism in Film and Media Theory: East Asia and Beyond」(Columbia University, New York, 2019年2月28日—3月2日)</p> <p>→ 1973年の日本自主映画と政治的運動との(無)関係の意味</p>	

○その他の活動

・日本滞在の間に自主映画作品の保存・オンライン上映のための「日本自主映画オンラインアーカイブ」を作る準備として様々な組織(びあフィルムフェスティバル、イメージフォーラムなど)と個人作家(原将人など)と相談し、協力を得ました。

4. 今後の活動予定

今後はまだ十分把握していない 1950 年代の自主映画の状況を研究し続け、2021 年まで日本の自主映画の歴史についての本を完成するつもりです。そして2020年の春に「日本のアマチュア・メディア」についての学会を開催し、同時に「日本自主映画オンライン・アーカイブ」を開始します。